

## 2024 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科  | 言語聴覚士学科(昼夜間部) |                 | 科 目 区 分                | 専門分野                 | 授業の方法                   | 講義            |
|--|---------------|-----------------|------------------------|----------------------|-------------------------|---------------|
| 科 目 名  | 補聴器・人工内耳Ⅱ     |                 | 必修/選択の別                | 必修                   | 授業時数(単位数)               | 30 (1) 時間(単位) |
| 対 象 学 年  | 2年生           |                 | 学期及び曜時限                | 前期 6,7限他             | 教室名                     | 402他          |
| 担 当 教 員  | 西岡隼基          | 実務経験と<br>その関連資格 |                        |                      |                         |               |
| 《授業科目における学習内容》   |               |                 |                        |                      |                         |               |
| 聴覚のリハビリテーションには必ずついてくる「補聴器・人工内耳」について種類・機能の基礎知識を修得し、リハビリテーションにおけるの活用方法を学習する。   |               |                 |                        |                      |                         |               |
| 《成績評価の方法と基準》   |               |                 |                        |                      |                         |               |
| 学期末試験(筆記)において60%以上の得点をもって合格とする。  |               |                 |                        |                      |                         |               |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》  |               |                 |                        |                      |                         |               |
| 標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第3版(医学書院)  |               |                 |                        |                      |                         |               |
| 《授業外における学習方法》  |               |                 |                        |                      |                         |               |
| 予習及び復習を行うことが望ましい。  |               |                 |                        |                      |                         |               |
| 《履修に当たっての留意点》  |               |                 |                        |                      |                         |               |
| 補聴器・人工内耳は、患者が生活の一部として使用してゆく機器を用いたリハビリテーションとなり、機器そのものの知識についても深く知っていくことが重要である。 |               |                 |                        |                      |                         |               |
| 授業の方法  | 内 容           |                 |                        | 使用教材                 | 授業以外での準備学習<br>の具体的な内容   |               |
| 第1回  | 講義形式          | 授業を通じての到達目標     | 補聴器の基本構造を理解する          | 教材、<br>配布資料、<br>スライド | 事前学習として該当頁<br>を通読しておくこと |               |
|  |               | 各コマにおける授業予定     | アナログ補聴器・デジタル補聴器、各部品の名称 |                      |                         |               |
| 第2回  | 講義形式          | 授業を通じての到達目標     | 補聴器の種類と特徴を理解する         | 教材、<br>配布資料、<br>スライド | 事前学習として該当頁<br>を通読しておくこと |               |
|  |               | 各コマにおける授業予定     | 耳穴形、耳かけ形、各々の種類の部品位置・構造 |                      |                         |               |
| 第3回  | 講義形式          | 授業を通じての到達目標     | 補聴器の音響特性について理解する       | 教材、<br>配布資料、<br>スライド | 事前学習として該当頁<br>を通読しておくこと |               |
|  |               | 各コマにおける授業予定     | 周波数レスポンス曲線、音響利得        |                      |                         |               |
| 第4回  | 講義形式          | 授業を通じての到達目標     | 補聴器の加工について理解する         | 教材、<br>配布資料、<br>スライド | 事前学習として該当頁<br>を通読しておくこと |               |
|  |               | 各コマにおける授業予定     | イヤモールド、音道、ダンパー、ベント     |                      |                         |               |
| 第5回  | 講義形式          | 授業を通じての到達目標     | 補聴器の機能について理解する         | 教材、<br>配布資料、<br>スライド | 事前学習として該当頁<br>を通読しておくこと |               |
|  |               | 各コマにおける授業予定     | ノンリニア増幅、ハウリング抑制、雑音抑制   |                      |                         |               |

| 授業の方法 |      | 内 容         |                           | 使用教材         | 授業以外での準備学習の具体的な内容   |
|-------|------|-------------|---------------------------|--------------|---------------------|
| 第6回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 成人の補聴器適応までの流れを理解する        | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 事前検査、機種選択                 |              |                     |
| 第7回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 成人の補聴器適応までの流れを理解する        | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 耳型採型、フィッティング              |              |                     |
| 第8回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 補聴器適合検査の指針(2010)について理解する  | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 語音明瞭度測定、環境騒音の許容を指標とした適合評価 |              |                     |
| 第9回   | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 補聴器適合検査の指針(2010)について理解する  | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | ファンクショナルゲイン測定、実耳挿入利得      |              |                     |
| 第10回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 補聴器の適合検査について理解する          | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 語音明瞭度測定                   |              |                     |
| 第11回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 乳幼児の補聴器選択・調整について理解する      | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 装用耳・器種を選択、周波数特性と利得        |              |                     |
| 第12回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 乳幼児の補聴器適合評価について理解する       | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 装用状態、聴力・ことばの聴取能           |              |                     |
| 第13回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 人工内耳の基礎知識を整理する            | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 人工内耳の基本構造について             |              |                     |
| 第14回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 人工内耳の適応について理解する           | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 成人の適応基準、小児の適応基準について       |              |                     |
| 第15回  | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 人工内耳を用いたリハビリテーションについて理解する | 教材、配布資料、スライド | 事前学習として該当頁を通読しておくこと |
|       |      | 各コマにおける授業予定 | 人工内耳装用者の評価・訓練について         |              |                     |